

平成28年度図書館事業評価

事業番号	【事業内容】	【5年間の獲得目標26～30年度】	28年度目標	図書館評価（一次評価）	図書館協議会評価（二次評価）		
Ⅱ-1 資料計画							
1 一般図書資料	利用の拡大を行うため、中央館と各地域館の規模や立地条件、利用状況に応じた特色ある資料構成と書架づくりを行います。	・横積み資料をなくすなど、中央図書館開架を利用しやすいよう整備します。 ・貸出しが多く、ビジネス世代の利用が見込まれるため、保谷駅前図書館開架を文庫・新書・ノベルス・ビジネス関係資料を重視した資料構成に変更します。 ・芝久保図書館に集密書架を増設し、開架スペースに資料保存の役割をもたせます。	中央図書館開架を利用しやすいよう整備します。	青年期コーナーの移動とその周辺書架を整理しました。 ・若い世代の利用を促すために、ヤングアダルト（以下「YA」）コーナーからの動線を考慮した位置に移動しました。 ・隣接するPC関連資料、家政実用書、健康・医療情報コーナーの書架を重点的に整理したことにより、実用書の新鮮度（直近5年出版物の割合）を平成27年度に比べPC関連資料は61.1 → 67.6%、家政実用書は49.8 → 52.5%に高めました。 ・青年期サービス全体の蔵書回転数は、昨年度に比べ12回 → 8.2回と減少しましたが、新たに整備した就活・語学資格参考書の蔵書回転数はそれぞれ9.5回、13.1回と全体（回転数8.2回）より多くの利用がありました。	A	青年期コーナーの利用増も図られており、整備努力に対して大いに評価します。青年期コーナーの独立でYAコーナーがより使いやすくなっています。青年期コーナーの利用から一般書架利用への誘導にも工夫いただきたい。今後は他のターゲットも検討いただきたい。	A
4 レファレンス資料	・レファレンス資料の蓄積と、ホームページ等で新刊情報をご案内します。 ・書庫資料の更新と開架資料の更新を実施します。	開架室の資料を有効に活用するため、各図書館資料の更新（資料の除架・除籍、移動、購入等）を順次実施します。	継続収集資料の地域館における保存期限を見直し、地域館の書架スペースの確保をめざすと同時に、地域館と中央図書館の役割を明確にします。	地域館で継続して収集する資料の複本について保存期限を設定しました。 保存期限は統計類5年、その他（六法含む）3年と保存期限を設定し、それによって地域館全体で開架書架に5段、閉架書庫に10段分のスペースを確保しました。 地域館に分散していた保存機能を中央図書館に集約しました。	A	レファレンス資料の保存期限の設定と複本の除去等によってスペースの確保が図られた点、保存機能を中央図書館に集約した点を評価します。利用者の立場からは保存を優先し除籍は慎重に扱っていただきたく、引き続き保存のためのスペース確保に努力いただきたい。	A
5 児童・青少年図書資料	外国語資料の原書の購入・買い替えを行い、蔵書の充実を図ります。特に、日本語資料の多言語化資料の購入や欧米以外の言語資料の購入をこころがけます。	・外国語資料を5年間で300冊購入します。 ・所蔵する外国語資料のうち、欧米言語以外の資料が占める割合を10%とします。	欧米言語以外の児童書の入手方法を検討し、欧米言語以外の児童書を40冊購入します。	28年度は143冊購入したことから、平成26年度以降の累計購入冊数が373冊となり、5年間の目標に対して24%上回りました。 そのうち、市内在住者が比較的多い、中国・韓国・フィリピン（タガログ語）の絵本を56冊購入しました。（この3ヶ国は市内外国人全体に対し76%を占めています） 欧米言語以外の外国語資料は87冊、外国語資料に占める割合は4.2%になりました。	A	欧米言語以外の言語の児童書について5年計画の目標値を上回って収集されたことを高く評価します。外国語の絵本や外国語によるおはなし会のサービスがあることを市内在住外国人の方々に周知されるよう取り組んでいただきたい。また、児童書とは別に、それらの言語で日本語を学べる資料も揃えていくことが望まれる。	A
	・YA資料についてノンフィクションの充実を図ります。平成25年度ではYA購入冊数の19%であったノンフィクション資料を、前年度比2%程度増を目安として購入をすすめます。 ・平成26年度から成人サービス担当者との共同の選書を月に1回程度設けることによって、選書の幅を広げ、ノンフィクション資料の充実を目指します。	ノンフィクション資料の充実を図るため、5年間でノンフィクション資料の購入目標を、YA購入冊数全体の30%とし、それを維持します。	・中央図書館のYAコーナーをリニューアルし、特に高校生世代に向けた資料の充実に取り組みます。 ・購入資料のうち、30%をノンフィクション資料とします。	中央図書館のYAコーナーのリニューアルを実施し、中高生おすすめ本コーナー・進路コーナー（進学・就職）・10代のお悩みレスキュー等を新設しました。 購入資料1,050冊のうち、ノンフィクションは399冊で購入率が38%になりました。これにより、購入率実績は2年連続で30%を維持しました。 多彩なジャンルを幅広く蔵書とすることで、YA世代の要求に応えられるようにしました。	A	YA世代のニーズをとらえコーナーのリニューアルを図ったことを評価します。広報パンフレットなどを市内の中高に配布するなどYA世代に図書館に足を運んでもらえる工夫を期待したい。YA世代の好みの作家作品だけでなく、伝えていくべき古典名作もバランスよく収集いただきたい。	A
6 地域・行政資料	地域・行政資料室は収集方針に沿って永久保存資料の原紙保存とデジタルデータ化を進めるため、積極的な公開と情報提供に努めます。	・第2次総合計画に位置づけられた「地域・行政資料の電子化の推進」事業を実施します。 ・図書館ホームページ「デジタル西東京市」の充実と「西東京市関係新聞記事索引」の公開を継続します。	・市史編纂資料の電子化を進め、貴重資料を後世に残すとともに、活用の利便性を図ります。 ・図書館ホームページ「デジタル西東京市」の充実と「西東京市関係新聞記事索引」の公開を進めます。	庁内より移管を受けた田無市史編纂資料と保谷市史編纂資料のうち、5,782点を電子化しました。地域・行政資料室のノートパソコンで電子化資料の閲覧を開始したことで、原本利用による劣化の防止と市史編纂資料活用の利便性を高めました。 電子化した写真資料から48点を選び、「市内の駅・鉄道」として、「デジタル西東京市」で公開しました。 「西東京市関係新聞記事索引」は収集記事4,921件が検索対象として増加しました。	A	市史編纂資料の電子化と「西東京市関係新聞記事索引」の公開について、着実に取り組んで来られたことを高く評価します。引き続き電子化を進めると同時に、電子化資料の存在を市民にアピールしていく必要があります。電子化資料の利用について、広報等の努力をお願いしたい。	A
7 音声資料・点字資料等	デイジー図書の作製を進めます。目標800タイトルのうち、前期計画期間の5年間で450タイトルのデイジー図書を作成しました。今後5年間に350タイトルを作成します。	今後5年間で350タイトルのデイジー図書を作製します。	利用者からのリクエストに基づき、75タイトルのデイジー図書を作製します。	合計60タイトル作製し蔵書にしました。目標に対して達成率は80%でした。 平成26年度からの累計数が172タイトルとなり、5年間目標に対して49%になりました。 これ以外に利用者から個人的利用のためのプライベートデイジー15タイトル、生活に必要な情報（健康事業ガイド・暮らしの便利帳）2タイトル作製しました。	B	デイジー図書の作製については、目標達成率80%ですが、この分野における西東京市図書館の取り組みは、他の自治体に比べてきわめて先進的で評価に値します。作製ボランティア養成の機会増加など、作製体制の強化を図っていただきたい。	A

事業番号	【事業内容】	【5年間の獲得目標26～30年度】	28年度目標	図書館評価（一次評価）	図書館協議会評価（二次評価）	
II-2 サービス計画						
1 成人サービス	市民の課題解決を支援するサービスに取り組みます。	健康医療情報、法律情報など、課題解決支援に関わる資料について新規購入や買い替えを進め、新しい情報の提供に努めます。	中央図書館に健康医療情報コーナーを設置します。	健康・医療情報コーナーを設置し、入門的資料と専門的な医療系資料、がんセンターなど医療機関の機関紙・リーフレット等を体系的にまとめました。配布用のリーフレットも12種類各20枚を用意しました。 コーナー設置に合わせて、健康・医療（介護）に関する講演会を2回実施し、参加者は78名でした。参加者アンケートから普段図書館を利用しない人が71%でした。利用拡大を図るため、講演会の中で健康・医療情報コーナーや配布用リーフレットを案内し、図書館の所蔵資料に留まらず、参加者同士、地域で活動するグループや他施設等へのつながり等、新たな情報や場の提供をしました。	A	健康・医療情報コーナーの設置による関係資料の収集提供と関連講演会の実施を大いに評価します。とくに講演会の実施は、市民のニーズに応えた好企画で今後も継続を期待します。備え付け資料については、分野の性質上、最新のものを心がけ、一層の充実を図っていただきたい。
	成人サービスを年齢別、利用者層別に分け、対象者を絞り込んだ蔵書構成を行い、利用の拡大をめざします。	他部門と協力しながら、ビジネスパーソン支援サービス、シニア支援サービス、青年期サービス、多文化共生サービスを実施します。	シニア支援サービス・青年期サービスの利用促進のため、広報を含めたアプローチを工夫します。	館外への広報活動を積極的に行いました。 柳沢図書館で実施している、シニア支援サービスについてNHK番組「ひるまほつと」の取材を受け、シニア世代だけでなく介護職員等の利用も直接反応を聞くことができました。利用者から反応も多く聞かれ、サービスの周知に効果がありました。 あわせて28年度にリニューアルした情報紙「ちらっと」で特集としてシニア支援コーナーを取り上げ、利用者へのアプローチを図りました。 提携する武蔵野大学の学生オススの本の展示を行いました。 2ヶ月で展示資料の蔵書回転数3.25回と、常に貸出されている状態でした。大学生直筆のオススの理由の展示も行いました。	A	シニア支援サービス（柳沢）と青年期サービス（中央）の広報に関して、それぞれ積極的な取り組みを行ったことを評価します。特に、シニア支援サービスについてはTVの報道番組に採り上げられるなど、図書館の努力の成果と思います。また、青年期サービスコーナーについては、市内大学との連携活動も大いに評価できるものです。
2 児童・青少年サービス	・おはなし会の充実を図ります。 ・行事のPRについて充実を図ります。	・全館での1・2歳児向けおはなし会を実施します。 ・各館のおはなし会の現状を把握・精査して、内容の標準化を図ることにより、参加する子どもたちが、どの図書館でも一定基準を満たした同等のサービスを受けられるようにします。	・芝久保図書館の1・2歳児向けおはなし会を実施します。 ・ひばりが丘図書館の1・2歳児向けおはなしひろばの回数を増やします。	芝久保図書館で新規事業として1・2歳児向けおはなしひろばを年3回実施しました。参加者合計は48人、1回平均参加者数16人となりました。 ひばりが丘図書館の1・2歳児向けおはなしひろばの回数を10月より月2回から3回に増やしました。下半期の参加者合計は269人となり、平成27年度同時期と比較して43.9%増加しました。1回平均参加者数は14.9人となり、平成27年度同時期と比較して12.4%減少しました。	A	1・2歳児向けのおはなし会（芝久保）、おはなしひろば（ひばりが丘）が新たに開催され、西東京市図書館全館で実施されるようになったことは高く評価されます。 1・2歳児向けのおはなし会は、絵本に親しむ親子を増やすファーストステップで今後の拡充、向上を期待したい。
3 レファレンスサービス	・利用者へレファレンスサービスをPRし、利用者により有用な情報を届けるため、有料データベースを活用したレファレンス事例を公開し、その手法について、市民講座を開催します。 ・情報弱者の解消に向け、利用者により役立つ方策について検討し、具体化します。	利用者対象の有料データベースの活用方法、国立国会図書館アーカイブ資料データベース閲覧講習会、利用者用検索機（OPAC）の利用方法講習会等の開催について、段階的に拡大し、5年間で100回以上の実施を目標とします。	国立国会図書館デジタルコレクション（図書館送信サービス、以後デジタルコレクション）および国立国会図書館歴史的音源サービスに参加し、他のデータベースと合わせて周知広報をおこないます。	5月にデジタルコレクション、9月に歴史的音源サービスの提供を開始しました。 閲覧件数はデジタルコレクションは465資料、歴史的音源は84音源でした。 デジタルコレクションはデータベースの中でもっとも利用が多く、レファレンス事例への活用も活発でした。 データベース講習会をジャパンナレッジ2回、開蔵2回実施しました。合計定員24人に対し、22人参加しました。利用者アンケートの結果、好評でした。 館内無料Wi-Fiについて利用者用揭示物・マニュアルを新たに作成しました。揭示物・マニュアルを多言語化したこともあり、日本語を母語としない利用者の閲覧・需要を促しました。	A	国立国会図書館の「デジタルコレクション」のサービス提供と「歴史的音源サービス」への参加は、市民への情報環境整備の活動として、図書館サービスの向上につながるものです。広報の努力を継続していただきたい。
	・職員・嘱託員の研修機会の確保と館内研修の拡大を進めます。 ・外部研修で得た知識や技能について、館内研修での還元を行います。	職員・嘱託員の研修を充実させるため、25年度（200時間）比5%ずつの増加を目標とします。	・有料データベースの内部向け研修を外部講師を招いて実施し、データベースの理解と活用を促進します。 ・嘱託員向けの研修を実施し、レファレンススキルを向上させます。	外部講師を招いてビジネス情報データベース（日経テレコン）の研修を実施し職員・嘱託員にデータベースの知識と理解を深めました。アンケート結果では全員が理解が深まったと回答し、45%が「とても理解が深まった」を選択しました。 レファレンス課題研修を職員・嘱託員（47人）を対象に、延べ321回実施しました。	A	有料データベース（特に新聞データベース）などの館内における無償提供は、市民にとって大変有用なもので、まず図書館員がその使い方を研修したことは評価します。今後は、利用者自身が活用できるよう、図書館員による支援を期待します。また小・中学生に向けて、データベースの利用法を含めた図書館レファレンス機能の広報を行う企画も検討いただきたい。

事業番号	【事業内容】	【5年間の獲得目標26～30年度】	28年度目標	図書館評価（一次評価）	図書館協議会評価（二次評価）	
4 地域・ 行政資料 サービス	西東京市情報を求める市民要請に答えられるようにするため、適切な書架作りを行いコーナーの充実に努めます。	・中央図書館コーナーには周辺地域を含めて市民の暮らしに役立つ最新の行政資料と、郷土にゆかりのある方の著作や、歴史、民俗等西東京市を知るための郷土資料整備に努めます。 ・地域館コーナーには最新の行政資料を整備しコーナーの刷新に努めます。 ・コーナー、書庫、地域・行政資料室を併せて資料整備の拡充に努めます。	縁の人の著作、関連書物の充実に努めます。	縁の人物と作品等の情報の収集に努め、収集を強化しました。西東京市縁の人の資料が年間で1,439点（内購入560点：前年度比20.1%増）増加しました。 「著者や市民からの寄贈資料の受入れ」、「絶版や出版社品切れとなっている著作物の古書店等からの購入」、「所蔵資料のうち縁の人に関する資料の請求記号・書架変更」などにより入手しました。	A 「西東京市縁（ゆかり）の方紹介コーナー」、電子ブック「縁（ゆかり）」、「西東京市縁講演会」等の諸活動は、西東京市ならではの企画であり、大いに評価されるものです。今後も継続、充実を図っていただきたい。	A
	西東京市に関する情報の積極的な収集のため、市民や市内活動団体、庁内各部署、特に下野谷遺跡等文化財関連事業との連携を図るよう努めます。	相談、支援、調査、事業開催に努めます。	縁の人情情報の発信を進めます。	図書館ホームページ「西東京市 縁（ゆかり）の方の紹介 コーナー」に詳細ページを追加、100名の詳細を追加更新しました。アクセスは年間1,753件、月平均146件となりました。電子ブック「縁（ゆかり）～西東京市ゆかりの文化人を紹介～」につながるコーナーへのアクセスは年間2,239件、月平均187件となりました。西東京縁講演会等を開催し市内外へ向けて西東京市ゆかりの人情情報の発信を行いました。 第1回 作品展と講演会 「『平家物語』の世界～切り絵作品とともに鑑賞する～」 作品展来場者数：97名 講演会参加者数：59名 第2回 朗読会と講演会 「安房直子さんの世界を語る」 参加者数：38名	A 「縁」関連資料の積極的な収集活動とその成果について大いに評価します。	A
5 ハンディ キャップ サービス	宅配市民ボランティアを活用し、宅配サービスを市内全域に網羅するように整備します。	宅配事業を推進するため、宅配希望者80名の登録を目標とします。	市民ボランティアを活用した宅配サービスを29年度に実施するための準備を行います。	市民ボランティアを活用した宅配サービスを実施するにあたり必要な宅配サービスの内容と定義、宅配協力員（ボランティア）制度、同募集に関する要領の素案を作成しました。	B 平成29年度から実施する予定の市民ボランティアを活用した宅配サービスの準備として、宅配協力員制度や募集に関する要領素案の作成したことについては一定の評価をしますが、サービス開始に向けて、詳細な検討を加速していただきたい。	B
多文化・ 多言語 サービス (新規)	多文化サービスの検討と事業整備を実施します。	多文化サービスの事業開始を目指します。	ハンディキャップサービス担当が窓口となり、各部門と協力して多文化サービスの実施に向けて調査・研究をしていきます。	都内の多文化サービスの実施状況のアンケート調査を実施しました。実施自治体は特別区17区、多摩地域16市町でしたが、利用案内などを多言語で提供する自治体がほとんどで、おはなし会などの行事開催をする自治体が特別区で3区、多摩地域で2市でした。多文化共生センターの協力を得て、児童サービス担当と協力し、多言語（英語・中国語・韓国語）によるおはなし会を実施しました（参加人数：35人）。	A 都内の多文化サービスの実施状況のアンケート調査、多言語によるおはなし会の実施など、西東京市図書館の多文化サービスの端緒が開かれたことを評価します。アンケートの調査結果や多言語おはなし会の経験を踏まえ、多文化サービスの充実に期待します。	A